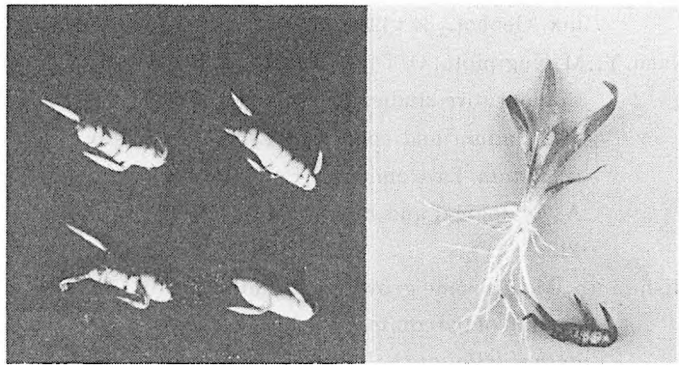


こをつけたままのコウガイモがたくさん浮かんでくる。犯人は水鳥だという。水鳥がコウガイモの殖芽を食べるために水底をかきまわすのである。

以前、琵琶湖でコウガイモの殖芽について調べた。この殖芽は地中5~7cmの深さの所に形成されており、その密度は1㎡あたり70個近かった(近江大橋東詰)。餌としての価値を知るため、デンプン含量を定量した。結果は乾重量の58~66%(平均59.3%)であった。エビモの殖芽でもデンプン含量は26%とされる(前田・生嶋 1978)し、他の分析例でもこれほど高い値はない(ちなみに、いっしょに分析したササバモの殖芽は33.2%、同地下茎で3.2%であった)。

この結果を見ると、コウガイモの殖芽は実に多くの栄養分を貯えた優れた餌であることがわかる。水鳥が見の



【写真】コウガイモの殖芽(左)とその発芽(右)

がさないのもうなづける。秋に形成された殖芽の何%が翌春まで生き残れるのか、コウガイモの個体数はその年の水鳥の密度によっても影響を受けているのではないか、等々、調べてみればおもしろかろうと思っている。

○文献リスト<1983-(3)>

秋山弘之, 日本産ウキゴケ属の孢子, 植物分類地理 34: 160-165.
 伊藤一幸・渡辺 泰, オモダカ科雑草の生育と繁殖体形成に及ぼす水位の影響, 雑草研究 28: 187-193.
 片桐義昭, ムジナモの個体数増加率, 食虫植物研究会誌 34: 114-116.
 亀岡 弘・尾本裕司, スイレンの精油成分について, 日農芸化学誌 57(1): 37-40.
 倉田 亮, 水郷とヨシ I—地場産業の支えとして, II—景観と機能— 植物と自然 17(13): 39-41, (14): 38-40
 小宮定志, 新・食虫植物の進化論(1), 食虫植物研究会誌 34: 111-114.
 佐藤雅志, 実験植物としての浮草, 遺伝 37(7): 78-83.
 下田路子, 広島大学統合移転地およびその周辺部に分布するため池の水草, 植物地理・分類研究 31: 46-57.
 須賀瑛文, 塚ノ杵池とその周辺の植物の保護, ため池の自然(名古屋ため池の自然研究会会報) No. 1: 6-8.

———, ジュズシャジクモ沖繩県で発見, 植物地理・分類研究 31: 21
 浜島繁隆・近藤繁生・村上哲生, 塚ノ杵池(名古屋市名東区)の環境と水生生物, 地域社会 8(1): 72(1)-60(13).
 林 雅美, コカナダモ尾瀬沼を“占領”自然保護 No. 258: 20
 原 寛, 東亜植物註解(12, 47), カワツルモ, 他, 植研 58: 321-330
 Ikusima, I. Human impact on aquatic macrophytes, “Man’s Impact on Vegetation”(ed. by W. Holzner et al): 69-75, W. Junk Publ., Hague
 ———, K. Hino & J. G. Tundisi. Daily oxygen budgets in a submerged plant stand in Broa Reservoir, Southern Brazil, Jap. J. Limnol. 44: 304-310.
 Kobayashi, H. & K. Ueki. Phenotypic variation and adaptation in *Eleocharis kuroguwai* Ohwi, a paddy perennial Cyperaceous weed. Weed Res. Japan 28: 179-186.
 Mitsuta, S. A revised observation on branching

- and sporocarp of *Salvinia*. Acta Phytotax. Geobot. 34 : 198 — 207
- Nasu, Y., M. Kugimoto, O. Tanka & A. Takimoto. Comparative studies on the absorption of cadmium and copper in *Lemna paucicostata*. Environmental Pollution Ser. A. Ecological and Biological 32 : 201 — 210.
- Nishimura, M. Rhizome growth and matter production of the common buckbean, *Menyanthes trifoliata* L. Physiol. Ecol. Japan 20 : 115 — 128.
- Satake, K. & S. Shimura. Carbon dioxide assimilation from air and water by duckweed *Spirodela polyrrhiza* (L.) Schleid. Hydrobiologia 107 : 51 — 56.
- 原田 彰. シャジクモ. 遺伝 21 (3): 口絵グラフ.
- 平松信夫. アカウキクサに共生する藍藻. 採と飼 29 : 258 — 259.
- 宝月欣二. 水生植物. 遺伝 21 (7): 12 — 17.
- ・沖野外輝夫・中本信忠・船越真樹. 水生植物の保護に関する基礎的研究. 特定研「陸水生生物ならびに陸水生生物の保護の方法に関する研究」: 9 — 11.
- 榊井昭夫. 低地性高層湿原の植物生態—深泥池60年間の遷移— 植物と自然 1 (7): 5 — 8.
- 三木 茂. Eotrapa の形態と類縁. 武庫川女子大紀要 (自然科学) 15 : 267 — 272.
- 水島正美. コカナダモの学名. 植研 42 : 48.
- 矢木 博. 諏訪湖の水生植物の化学成分. 陸水雑 28 : 64 — 67.
- < 1968 >
- 荒井修二. カナダモを材料とした実験. 遺伝 22 (5): 45 — 49.
- 伊倉伊三美. ヒツジグサの開花の観察. 植物と自然 2 (1): 36.
- 市川弘幸. 水生高等植物の生態学的研究 (第1報) 生態分布の概観. 新潟県立教育センター研究集録 第1集 理科研究編 (2): 77 — 84.
- 大滝末男. ショウブと風習. 植物と自然 2 (4): 6 — 9.
- . 水生植物の特徴と栽培法. 植物と自然 2 (6): 13 — 16.
- 小野寺正二. トチカガミ根における表皮の分化と原形質分離形. 福井大学教育学部紀要 II (自然科学) 18 : 141 — 143.
- 小池常雄. 浜名湖周辺の水生植物. 植物と自然 2 (4): 29 — 32.
- . 東海地方南部の食虫植物 (Ⅲ) — 滅びゆくナガバノイシモチソウ — 遺伝 22 (3): 41 — 44.
- 小宮定志. 食虫植物の捕虫と消化 1. モウセンゴケの食虫作用. 2. ハイトリグサとムジナモの食虫作用. 3. タヌキモおよびウツボカズラ・サラセニアの食虫作用. 植物と自然 2 (1): 15 — 18. 2 (2): 6 — 10. 2 (3): 23 — 27.
- . 食虫植物の基本問題と生態. 植物と自然 2 (4): 10 — 13.
- 斎藤宗勝・佐々木 寧. 屏風山の生態学的研究 II. 屏風山草原の現存量について (予報). 青森県生
- 水草関係文献目録 (7)
- < 1967 つづき >
- 小泉清明・桜井善雄・川島信二. 諏訪湖の高等水生植物の現存量 (諏訪湖陸水学資料 I). 陸水雑 28 : 57 — 63.
- 斎藤宗勝・石川茂雄. 屏風山の生態学的研究 I. 屏風山北部に於ける湖沼及び湿原の植生. 弘前大学教育学部紀要 18 (B) : 6 — 15.
- 桜井 元. ハスの花 (荷花). 遺伝 21 (8): 73.
- 植物と自然編集部. 大賀ハス—今年も各地で花ひらく. 植物と自然 1 (4): 5.
- 進野久五郎. 滅びゆくオニバス (鬼蓮). 植物と自然 1 (3): 18 — 20.
- 杉野孝雄. アカウキクサとオオアカウキクサ. 遺伝 21 (8): 73.
- 武田久吉. 水芭蕉 (ミズバショウ). 植物と自然 1 (2): 6 — 8.
- 豊田清修. 検見川出土のハスの実の開花についての疑問. 植研 42 : 373 — 378.
- 西沢一俊. 植物生理学からみた水生植物. 遺伝 21 (7): 18 — 21.
- 沼田 真・篠崎秀次. 水田雑草群落の組成とその動態—房総半島の植生資料 II— 千葉大銚子臨海研究紀要 No.9 : 24 — 49.
- 野津良知. 水生植物の芽ばえ. 遺伝 21 (7): 10 — 11.